

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	舞子坂音楽堂児童デイサービス			
○保護者評価実施期間	2025年12月3日 ~ 2026年1月13日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	2025年12月3日 ~ 2026年1月13日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5領域活動のプログラムを基盤に、利用者様とのアセスメント、モニタリング等を通して本人主体を前提に、個別支援計画を作成し、一人ひとりの特性に応じた細やかな支援の充実を強化しています。また、面談時には、活発な意見が取り交わされるように環境整備をおこなっています。	本人主体の支援方法を基本精神に、ご利用者様のその時々の状況に臨機応変に対応した支援をおこなっています。好きなことや楽しんで取り組めることをさらに伸ばしていきながら、苦手なことや困難なことにチャレンジしていくことも可能になるように、自己効力感が醸成されるような取り組み方法を実施しています。	日々の取り組みをご家族にお伝えし、ご家庭でも継続した支援が必要な場合は、無理のない範囲で取り組んでいただけるよう、日々ご家庭との連携、調整に努めています。日頃から職員間で話し合える風通しの良い職場作りに努め、児童一人ひとりの特性を正しく理解し、児童の気持ちを尊重した支援が行えるよう心掛けます。
2	支援プログラムが個別活動・集団活動の音楽療法的な要素を取り入れて、各利用者や保護者のニーズに即して作成できるようにともに、宿題や学習プリントを含む個々の課題や保護者からの要望にも応じてプログラミングしていること。	集団音楽活動を取り入れ、集団での活動のルールやマナーが学べるようにワイクデイに毎日実施しています。活動時間の把握や準備、活動中の姿勢保持や活動に応じた身体状況の対応、職員や他児とのコミュニケーションや、受け答えの状況判断や意思決定力を高めるための本人主体の活動に取り組んでいます。	更に細やかな視点を持ち、利用者や保護者の方のニーズに即した支援プログラムが作成できるように取り組んでいます。また、インクルージョンの視点から、児童一人ひとり特性は違っても、集団音楽活動を楽しみ参加し活躍できるプログラム作りを、日頃から関わる職員で考え取り組んでいます。
3	地域の施設や公園への外出を実施しており、様々な体験活動にも力をいれています。利用者の新たな可能性の発見や、室内では中々見られない活き活きとした姿も提供していきます。	感受性を豊かにできるように様々な体験に参加できるよう工夫をしています。梨狩りなどの収穫体験や博物館への外出で興味の幅を広げる手助けなども意識して療育プログラムに取り入れています。	公園への外出の際は、体を動かす事に対する抵抗感を軽減し、運動の促進につなげていくようなアプローチも取り入れています。また、社会とのつながりや見分を広げるための活動を積極的に取り入れて、利用者の有意義な休日活動になるように努めています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他の子どもと活動する機会が設けられていない。	児童館に並行で利用されている児童はいますが、交流には至っていないです。地域の他の子ども達と活動する機会はほとんどありません。	地域の子どもたちの交流に関する情報を収集し、活動する機会の有効性を評価検証し、可能であれば機会を設けることが出来るよう努めます。また、より多様な支援方法を模索していくながら、より良い支援提供ができるように業務改善してまいります。
2	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなどの家族の支援や兄弟向けのイベントの開催等により、きょうだい同志の交流の機会が設けられるなどのきょうだいへの支援が手薄である。	交流を主体にした機会には至っておらず、年2回の音楽イベントを中心に交流の場を提供しています。ご兄弟のご利用があり、ご兄弟同士の交流の機会はありますが、父母の会、保護者同士の交流などの家族支援、兄弟向けのイベントなどのご家族の参加されるご兄弟への直接的な支援の開催はありません。	父母の会や保護者会、保護者同士の交流の場について、ご利用者様・保護者様のご要望を確認しながら、どのような形式での開催が適切かの情報収集をおこない、その評価・検証後、その取り組みについて検討していきたいと考えます。
3	家族に対しての家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていない。	個別のご相談で、ご家族のご相談にお答えする機会はあります、ペアレント・トレーニング等の家族参加型の機会は設けられていないです。	家族参加型の研修会や情報提供など、ご利用者様・保護者様のご要望を確認しながら、どのような形式での開催が適切かの情報収集をおこない、その評価・検証後、その取り組みについて検討していきたいと考えます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		舞子坂音楽堂児童デイサービス						
		公表日 2026年1月26日						
		利用児童数 20名						
		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	0	0	1	適切が不明。	基準省令に則った事業運営をおこなっています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	11	0	0	5	適切が不明。	基準省令に則った事業運営をおこなっています。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12	1	0	3	適切が不明。	個々の特性に応じた対応が実現できるよう環境整備をおこなってまいります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14	0	0	2	適切が不明。	全職員が衛生面への知識をしっかりと身についているよう内部研修の実施や外部研修へも積極的に参加してまいります。
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15	1	0	0		個々の特性に応じた支援の継続が可能となる様に引き続き職員の資質の向上に努めます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16	0	0	0		今後も継続して支援プログラムに応じた専門性ある支援を実施してまいりたいと考えます。
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16	0	0	0		個々のニーズに応じた支援計画の作成を心がけて行きます。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているだと思いますか。	15	0	0	1		今後も継続して、必要な項目を適切に設定、具体的な支援目標を設定して支援に努めます。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16	0	0	0		面談等に支援内容の確認をより丁寧に行います。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	1	0	0		季節感のあるプログラムや成長発達に応じたプログラム構成に今後も努めてまいります。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	4	1	2	9	他の事業所と合同でイベントがある。	利用児や保護者の方のご意向も鑑みつつ、イベントへの地域の子どもさんとの活動の機会など設定できたらと考えます。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16	0	0	0		ご利用者様に安心してご利用していただくために、説明が不十分にならないよう丁寧な説明を心掛けています。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15	1	0	0		契約時、モニタリング面談時等にご理解頂ける様に都度説明します。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	5	1	4		ニーズに応じて適切に対応する事を検討して行きます。
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができるていると思いますか。	16	0	0	0		今後も継続して、保護者の方との情報連携・共通理解に努めたいと思います。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	1	0	0		ニーズに応じて適切に対応する事を検討して行きます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16	0	0	0		充実した生活が送れるように、より良い支援体制を整備し継続してまいります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	5	2	7		ニーズに応じて適切に対応する事を検討して行きます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14	2	0	0	その時々で相談させてもらっています。	今後も継続して、ご家族からのご相談・申し入れへの迅速かつ適切な対応に努めています。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16	0	0	0		公式LINEの活用を中心に、情報伝達がスマートに実現できるように努めています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8	3	0	5		常に、良好な情報提供が可能になる方法について精査し、より良い情報提供に努めてまいります。

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15	0	0	1		今後も継続して、個人情報の取り扱いには十分留意してまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9	1	0	6		訓練をする児童にも実際の有事に備えた訓練になるように開催してまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	2	0	6		定期的な各種訓練の実施状況をSNS等で発信して行きます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12	1	0	3		日々のマンネリ化に流されないように意識を持ち、常に「かもしれない」と安全に対する意識を高めて、支援してまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14	0	0	2		事故等発生時は対応マニュアルに沿い迅速な対応を心がけて行きます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	15	1	0	0		今後も継続して利用の子どもさんが、安心感を持って通所できることを願って支援させていただきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	15	1	0	0		楽しみに思えるプログラムを児童の皆さんと一緒に作って行きます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16	0	0	0		ご利用者様の満足度が高まるように、全般的な業務内容の精査・評価をおこない、より良いものへ改善してまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	舞子坂音楽堂児童デイサービス					公表日	2026年 1月26日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	基準省令2.47mを超える床面積3.46mを確保し、余裕を感じられる3.0mを超えています。	トイレが一ヵ所そのため、100m離れた系列事業所のトイレを年3回/年に利用するケースがあるが、日常的な混乱はありません。		
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	人員基準を満たし、全体バランスを考慮し、支援状況により増員している。	引き続き、より良い支援提供ができるように適切な運営体制を整備していきます。		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	遊具、楽器、調理道具などしっかりと区画を整備し認識しやすい。入室フロアはバリアフリー化しており、利用者への環境は整備済み。	玄関アプローチのバリアフリー化が未整備で、車いす利用者が自力で入室できるスロープはありませんが、職員の負担になる状態ではありません。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	毎日の清掃業務で清潔保持に努め、活動毎に、フレキシブルに対応できる環境になり、学習スペースと遊具スペースの空間を分けている。	自由時間には、楽器を自由に演奏できる空間であるが、個別の防音空間設備は未整備。		
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	個々の状況や支援内容により、個別に空間利用をしている。また、その利用に関して制限はない。	個々のご利用者様の状況に適切に対応できるように、継続して支援しています。		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	1	法人のフィロソフィーを共有し、結果を評価して業務改善に努めています。また、一人一人の目標設定をおこない、業務改善に取り組んでいます。	取組が具体的な活動になるように、継続的な活動をおこなっています。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	保護者からの自己評価表を精査検討して、業務改善に取り組んでいます。	改善活動が継続的におこなわれるよう、実行後の評価を精査し、よりよい方法を検討していきます。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	会議はもちろのこと、随時有効的な意見が交わされるように話しやすい環境を整えています。	少しの変化にも支援者全体での会議としての堅苦しい雰囲気ではなく、気軽に話し合いの場が持てる工夫をおこない、風通しの良い環境整備を継続していきます。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1	現在、第三者評価をおこなうことに至っていない。	第三者評価をおこなうことに至っていませんが、ニーズを把握し適切に対応していきます。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	感染症予防や身体虐待防止研修などを定期的におこなっている。また、必要に応じて外部研修機会を設けています。	引き続き研修を通して、スキルアップをおこなっています。		
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	1	毎年、職員間で検討した支援プログラムをHPに公表している。	しっかりと周知され認知度が上がるような工夫をおこないます。		
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	定期的な面談を基に、本人主体を前提にアセスメントをおこない、幅広い職員の意見を取り入れながら、ご利用者様のニーズ把握をおこなっています。	引き続き、より良い計画立案が可能になる環境整備や提案力アップを目指していきます。		
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	定期的に計画案作成の会議を開催し、支援に関わる職員間で、自由闊達な意見を出し合い、最善な計画書策定の検討会議をおこなっている。	最良な多数の意見を精査し、その時々の最適解が導かれるように、また適切な評価ができるよう環境を整えていきます。		
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	計画内容を共有して、しっかりと支援提供時に計画を立案して支援している。	計画に沿った支援も、その時々の利用者の状況に応じて臨機応変に対応していきます。		
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	アセスメントシートやケース記録、情報共有LINEにて確認共有している。	情報が多岐にわたるので、個々の情報をしっかりと精査し、自己の行動に落としめるような咀嚼をしていきます。		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	5領域プログラムに沿って、計画書作成段階から項目を分け、その項目についての支援計画を立案し、計画支援をしている。	支援のマンネリ化や支援の押し付けにならないよう、さまざまな意見や方法を取り入れ、見聞を広げるように常にアンテナを張り、より良い支援提供者として、ご利用者様に接していきます。		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	計画段階で会議をおこない、支援職員で二つを抽出している。	さらに自由闊達な意見が創出されるように、環境整備を向上させていきます。		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	時期や環境に応じて職員で様々な意見を出し合い工夫している。	個々の発達状況が様々で、集団での活動プログラムに、立場を超えたプログラム参加で対応する場面もあり、経験値アップに繋げてまいります。		
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	計画書には、個別・集団活動内容を個々に応じて設定している。	個々の発達段階や状況に応じて、適切に対応していきます。		
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	未回答1	その日実行される個々の支援プログラムについて、職員間で共有しチームで連携して提供している。	支援開始前の限定的な時間の確保は困難であるが、それ以外の時間で確保しています。		

支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	21	8	0	個々の勤務体制により、支援終了後の限定した時間の全員参加は困難ですが、ITツールや隙間時間で情報共有している。	支援終了後の限定的な時間の確保は困難であるが、それ以外の時間で確保しています。
	22	8	0	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	情報が紛失しないように記憶や記録を徹底し、最善の支援計画の材料になるよう記録を継続していきます。
	23	8	0	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	保護者からの活発な意見が得られるように、環境整備やコミュニケーション力を高めています。
	24	7 未回答1	0	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	音楽活動をベースに、日常生活の充実と自立支援活動をおこない。ボランティア活動の鑑賞会を開催し、地域交流を実施している。
	25	7 未回答1	0	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	集団活動時には、自己決定に時間を要する場合の対応について、職員間で共通理解を持つて対応していきます。
関係機関や保護者との連携	26	7 未回答1	0	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	普段閑りや関係性の深い職員からの聞き取り形式を採用して対応しています。
	27	6	1	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	今後も、個々のニーズに沿って関係機関との連携をおこない、より良い支援が提供できる体制を整備していきます。
	28	7	1	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	学校お迎え時に、担当先生や関わる先生との良好な関係構築のために、良好なコミュニケーションを継続していきます。
	29	5 未回答1	2	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	必要に応じて、能動的に直接的な情報共有をおこなっています。
	30	7	1	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	よりスムーズに移行できるように、プライバシー等に配慮し、情報共有をおこなっています。
	31	1	7	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	今後、必要な状況に至った場合には、適切に対応していきます。
	32	2	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	今後、社会情勢やニーズに応じて対応関係機関と調整して検討していきます。
	33	2 未回答1	5	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	積極的な参加には至っておりません。今後、どのような形で活動への参加が可能か検討していきます。
	34	8	0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	より良い情報提供が可能になるように、職員のスキルアップを継続的におこなっています。
	35	5 未回答1	2	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	今後、ニーズを把握し研修開催も検討していきます。
保護者への説明等	36	8	0	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	内容が多岐にわたり複雑さもあるので、定量的な説明はするが、個々の保護者からの質問に回答する形で対応しています。
	37	8	0	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	さらに、最良な意見交換ができる場を、画一的なものにとらわれず、模索していきます。
	38	8	0	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	常に、丁寧な説明を心掛け、より良い理解に向けたアクションを実施していきます。
	39	7	1	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	今後も継続して支援ができるように、環境整備やスキルアップに努めてまいります。
	40	4	4	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	今後、ニーズがあれば交流を主体にした会も検討していきます。
	41	8	0	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	報告業務が滞らないように、職員間の報告方法の精査と有効な取り組みを今後も継続していきます。
	42	7	1	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	常に、良好な情報提供が可能になる方法について精査し、より良い情報提供に努めてまいります。
	43	8	0	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	常に、情報漏洩の危機管理をもち、意識していきます。

非常時等の対応	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	個々の意思表示の方法や状況に応じて、主体的な意思表示ができるように配慮しています。	意思疎通の困難な利用者に寄り添った情報獲得ができるかを常に検証し、恣意的な判断がされないように留意していきます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	1	ハロインパーティーでは、地域住民の方に、おやつの配布等をお願いし、パーティーを盛り上げてもらいました。	今後、ニーズにより地域住民との活動枠を整備していきます。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	それぞれのマニュアルの策定及び職員間の情報共有は整備されていますが、ご家族向けの周知方法がアンケート等を実施したわけではないので、未知数です。また、それぞれの訓練を定期的に実施しています。	訓練のための訓練にならないように、訓練をする児童にも実際の有事に備えた訓練になるように参加を促しています。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	業務継続計画（BCP）を作成し、火災・地震・感染症などの避難訓練を毎年実施しています。	訓練のための訓練にならないように、訓練をする児童にも実際の災害に備えた訓練になるように参加を促しています。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8	0	インターク時から確認し、状況変化に応じて、都度保護者からの情報共有できる環境を整備しています。	今後も、遅滞ない情報提供がおこなわれるよう環境整備をしていきます。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	医師の指示書に基づく対応児童が現在在籍していませんが、必要に応じて対応します。	そのような対応が必要になった場合に備え、個々の職員のレベルアップをおこないます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	安全計画を策定し、日々安全に対するアンテナを張り、常に安全に過ごせるような環境整備をおこなっています。	日々の日常のマンネリ化に流されないような意識を持ち、常に「かもしれない」と安全に対するアンテナを張っていきます。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	日々の支援内容を共有し、支援の内容や方法を通じて安全性に関する取り組みを理解していただけるように情報提供をおこなっています。	どのような形式がより明瞭なのかを常に検討していき改善していきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハット報告書を作成し、再発防止策について熟考し、再発防止に努めています。	今後も事故防止のための有効な方法を模索していきながら支援していきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	毎年、身体虐待防止研修を実施し、職員の認知・レベルアップを図っています。	研修毎に気持ちをリセットし、自分が常に虐待に対しての初心者であることを意識して研修に臨んでいきます。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	現在、身体拘束が必要な利用者は在籍していませんが、必要に応じてガイドラインに則って適切に対応します。	今後、必要性があれば計画書への記載をおこなっていきます。